

7. 今後の対応方針

(1) 事業の必要性等に関する視点

国道 1 号は主要幹線道路であり道路ネットワーク形成において重要性が高い路線です。

当該事業区間の前後は 6 車線で整備されており、当事業区間のみが 4 車線となっていることからボトルネックとなり、渋滞を引き起こしているため、拡幅整備が必要です。

(2) 事業進捗見込みの視点

当事業の進捗率は約 76%となっております。引き続き用地買収を促進しており、すでに約 88% (面積ベース) の用地買収が完了しています。今後も平成 19 年度の供用を目指し、用地交渉と事業を推進してまいります。

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性による視点

計画については、現在用地取得が約 88%完了し、残区間の用地買収促進を図っているところであり、経済性、効率性の観点からも現計画は妥当であると考えられます。

なお、工事施工にあたっては、コスト縮減に資する調達方法の採用は新技術の積極的活用導入など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、あわせて整備効果の早期発現を図ります。

(4) 対応方針 (原案)

当事業は継続が妥当と考え、平成 19 年度の供用を目指し、用地買収を促進してまいります。事業の完成時期を勘案し、用地交渉と事業を推進してまいります。

今後、早期に整備効果を発現出来るよう、来年度より浜松町交差点の一部改良等、整備効果が期待できるところから順次段階的に整備してまいります。

(5) 他事業への反映

商店店舗併用住宅等が連担した中心市街地の拡幅事業では、土地所有者、借地権者等が多数いることから、権利関係が輻輳している場合があります。用地買収に時間を要することが予想されます。

今後の事業においては、供用目標を見据えて用地買収に鋭意努めるとともに、用地難航物件を早期把握し、適切な時期に事業認定へ移行することが必要と考えられます。